

平成19年度グローバルに活躍できる「広島っ子」育成事業

廿日市高等学校で 「世界とのふれあい講座」を実施



〔実施概要〕

日時：2007（平成19）年 11月21日（水）14：25 ～ 15：35

場所：廿日市市桜尾三丁目3-1（校長：三川 和輝）

<http://www.hatsukaichi-h.hiroshima-c.ed.jp/>

対象：2学年（336名）

講師：水本和実氏

（広島市立大学広島平和研究所 准教授）

〔テーマ〕

「国際化」の中でどう生きるか

～ 広島からの国際貢献と核軍縮に向けた活動～

〔内容〕

「国際化」とは人・カネ・モノが国境を越えて行き来することであるが、国際化すると価値観の普遍化が生まれ、固有の文化・民族・言語などアイデンティティを意識するようになる。

国際人とは国際社会を理解している人の事であり、多様なアイデンティティを尊重し多様な人々が互いに「平和共存」を受入れ、実現に向け努力する人である。

広島は被爆体験をもとに、平和を訴えてきたが、アメリカでは今でも原爆投下が正しいと考える人が多数派だ（シカゴの高校の授業をDVDで紹介）。中国や韓国でも原爆で戦争や植民地化から解放されたと考えている人がおり、彼らと対話しながら平和を考えねばならない。

また、核兵器だけが平和の課題ではない。内戦や紛争が終結した地域の復興の手助けは、現代の世界の最重要課題だ（広島発のカンボジア支援の写真を紹介）。



国際化時代の多様な課題に言及する一方、広島に求められている

〔講師プロフィール〕

1981年東京大学法学部卒業後、朝日新聞社に入社（記者職）。盛岡支局、川崎支局、東京社会部を経て1987～89年米国タフツ大学フレッチャー法律外交大学院修士課程留学、法律外交修士号（M.A.L.D）取得。東京社会部、外報部、ロサンゼルス支局長を経て98年より現職

広島平和文化センター・広島平和記念資料館のセミナー等で原爆・核問題に関する講師を務める一方、広島県のカンボジア支援プロジェクトに当初から参加。

NPO法人「平和貢献NGOs ひろしま」の理事も務める。

〔所属組織の紹介〕

広島平和研究所は、広島市立大学の附置機関として、1998年（平成10年）4月1日に設立。

世界初の核兵器による被爆を体験した都市としての歴史を背景に、学術研究活動を通じて、核兵器の廃絶に向けての役割を担うとともに、地球社会が直面する諸問題の解決にも寄与し、世界平和の創造、維持と地域社会の発展に貢献する国際的な平和研究機関を目指している。

<http://serv.peace.hiroshima-cu.ac.jp/>

〔講師コメント〕

国際化とは何か、被爆体験に基づく平和の訴え、内戦・紛争終結地域への復興支援、という3つの問題を短時間にお話したので、詰め込みすぎて難しかったのではないかと反省しました。でも、最後まで一生懸命聞いていただいて、感謝しております。将来、社会に出たときに、何か一つでも思い出してもらえれば、きっとヒントになると思います。